

## 生物多様性及び生態系サービスの総合評価の概要

### 1. 検討会開催の背景

#### <国内外の生物多様性・生態系評価に関する動向>

- ・ 「生物多様性総合評価（JBO）」が平成 22 年 5 月に公表され、1950 年代後半から 2008 年頃までを評価期間として、日本全国の生物多様性の損失の要因と状態等が評価された。また、「日本の里山・里海評価」では、里山・里海の生態系サービスの傾向について分析。
- ・ JBO 実施後、2010 年の生物多様性条約 COP10 で 2020 年までの生物多様性の世界目標である愛知目標が採択され、その後作成された生物多様性国家戦略 2012-2020（以下、国家戦略という。）の点検に基づき、COP12 に向けて愛知目標達成状況の中間評価が実施された。
- ・ 同国家戦略において、「平成 27 年までに我が国の生物多様性の現状についての総合的な評価を行う」と記載。
- ・ 生物多様性及び生態系サービスに関する政府間プラットフォーム（IPBES）による生物多様性及び生態系サービスに関する地球規模アセスメントが 2016 年-2019 年で実施され、アジア太平洋地域アセスメントが 2015 年-2017 年で実施される予定。それに向け、各国における取組のインプットも求められる予定。

#### <JBO 以降の環境省予算による生物多様性・生態系評価の検討状況>

- ・ 2010 年以降、生態系サービスの定量評価、経済価値評価を進め、定量評価の指標検討、地図化の試行、湿地等の特定の生態系における経済価値評価の検討等を実施してきた。また、環境研究総合推進費で「アジア規模での生物多様性観測・評価・予測に関する総合研究（S9）」等が進められ、わが国における生物多様性及び生態系サービス評価に関する研究・調査が進められてきた。

- ・ わが国の生物多様性及び生態系サービスの価値や現状等を国民に分かりやすく伝え、生物多様性保全に係る各主体の取組を促進するとともに、政策決定を支える客観的情報を整理することが求められている。
- ・ JBO の評価結果を踏まえつつ、その後の生物多様性及び生態系サービスの国際的な動向や国内における知見の蓄積を踏まえ、生物多様性のみならず、それがもたらす生態系サービスの変化や傾向も含めて評価し直すことが求められている。

⇒ 愛知目標達成状況評価や IPBES の世界・地域アセスメントへのインプットを視野に入れ、JBO の評価結果を基本にしつつ、既存の情報・知見を踏まえた生物多様性及び生態系サービスの総合評価の実施

## 2. 平成 26 年度検討会の設置目的

生物多様性とそれがもたらす生態系サービスの価値や現状等を国民に分かりやすく伝え、生物多様性保全に係る各主体の取組を促進するとともに、政策決定を支える客観的情報を整理するための「生物多様性及び生態系サービスの総合評価」を平成 27 年度中に実施するにあたっての評価事項、指標等の整理。平成 27 年度は平成 26 年度の検討結果を元に総合評価を実施予定。

## 3. 総合評価の枠組及び実施方法

### <名称>

生物多様性及び生態系サービスの総合評価

(Japan Assessment on Biodiversity and Ecosystem Services: JABES (ジェイベス))

### <概念枠組>

IPBES の概念枠組を活用しつつ、JBO の評価枠組や愛知目標との関係を統合。

### <検討事項>

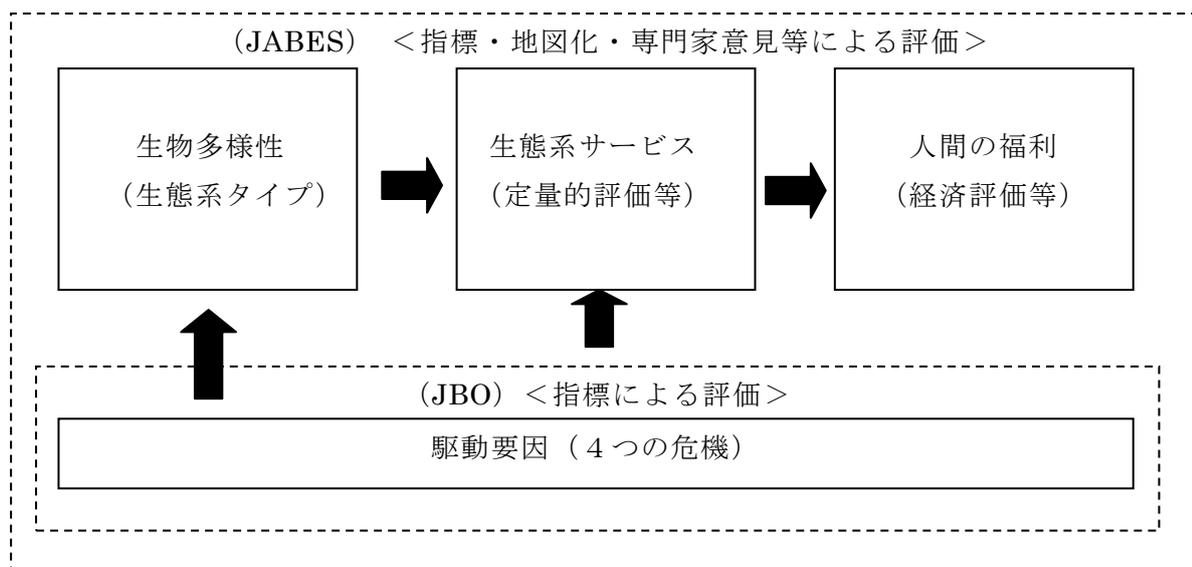
- ① 我が国の生物多様性がもたらす生態系サービスの変化や傾向の評価  
(国外の生態系サービス (特に供給サービス) への依存も含む)
- ② それが人間の福利にもたらす効果の把握
- ③ 愛知目標の達成状況に関する科学的な参考情報の整理

### <評価期間>

評価実施: 2014 年度及び 2015 年度の 2 年間 (ただし 2014 年度はフィージビリティ調査)

評価対象: JBO と同様に 1950 年台後半以降を対象期間に設定

### <評価手法案 (詳細は資料 3 参照) >



### <検討体制>

JBO と同様に専門家からなる独立した委員会とし、IPBES に関わる専門家や JBON 等の既存の専門家ネットワークと連携。

### <検討スケジュール案>

平成 26 年度	第 1 回検討会	概念枠組及び評価手法の検討
	第 2 回検討会	生態系サービス及び人間の福利把握の指標検討
平成 27 年度	第 1 回検討会	指標及び地図化による評価の実施
	第 2 回検討会	愛知目標達成状況に関する科学的な参考情報整理 総合評価報告書骨子の検討
	第 3 回検討会	総合評価報告書の検討

### <検討会委員>

齋藤 修	国連大学 IAS 学術研究員	(価値評価、将来予測)
白山 義久	海洋研究開発機構理事	(海洋生態)
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授	(森林生態) ※座長
中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授	(河川生態)
橋本 禅	京都大学大学院地球環境学堂准教授	(農村計画)
矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授	(植物生態)
山形 与志樹	国立環境研究所主任研究員	(土地利用シナリオ)
吉田謙太郎	長崎大学教授	(環境経済)

### (参考)

#### 生物多様性総合評価検討委員会の検討委員

加藤 真	京都大学大学院人間・環境学研究科教授
竹中 明夫	独立行政法人国立環境研究所生物圏環境研究領域長
中静 透	東北大学大学院生命科学研究科教授 座長
中村 太士	北海道大学大学院農学研究院教授
松田 裕之	横浜国立大学大学院環境情報学府教授
三浦 慎悟	早稲田大学人間科学学術院教授
矢原 徹一	九州大学大学院理学研究院教授
鷺谷 いづみ	東京大学大学院農学生命科学研究科教授